

緊急人道支援学会 企画セッション:

人道支援と人道主義

■ 要旨

緊急人道支援学会は、その設立趣旨にも示されているとおり、人道支援に従事する多様なアクターが知見を共有し、支援の方向性や政策を吟味し、社会に提言していくためのプラットフォームとして構想された学会である。こうした目的を果たすためには、そもそも「人道支援とは何か」という基本的理解が、参加者の間で共有されていることが不可欠である。

一般に人道支援とは、「緊急事態またはその直後において、人命の救助、苦痛の軽減、人間の尊厳の維持および保護を目的として行われる支援」と理解されており、この定義は外務省をはじめとする関係機関においても用いられている。また、人道支援は、人道性、公平性、中立性、独立性という、いわゆる人道主義の原則に基づいて実施されるべきものとされており、これらの原則は多くのアクターによって共有されてきた。

一方で、人道支援の実践は、技術革新や社会環境の変化に伴い、新たな手法の導入や、より効率的な支援のあり方が模索され続けている。本学会においても、こうした支援の方法や実践をめぐる活発な議論や意見交換が行われており、人道支援そのものは不断に進化を続けていると言える。

では、その根底にある理念や原則は、こうした変化の中で変わるべきなのだろうか。それとも、変わらずに守られるべきものなのだろうか。この問いは、「人道支援とは何か」という根源的な問題に直結するものであり、本学会の存在意義そのものに関わる概念的な中核である。

以上の認識に基づき、本学会では人道支援と人道主義について継続的に考察していくことを目的として、第1回大会より本セッションを設けてきた。第3回大会においても、この問題意識を引き継ぎ、引き続き検討を行うこととする。

■ 発表者の発表内容・略歴、およびファシリテーター、コメンテーターの略歴

【発表者】

武藤亜子/ むとうあこ 発表タイトル: 人道主義と人道的対応

独立行政法人国際協力機構(JICA)緒方貞子平和開発研究所専任研究員
立教大学大学院社会デザイン研究科特任教授

JICA での実務経験を踏まえ、安定的かつ持続的な平和に資する国際協力の在り方やその阻害要因、また人間の安全保障の概念や実践について研究。JICA 緒方研究所『人間の安全保障レポート』編集委員。主要編著書 “Preventing and Countering Violent Extremism in the Complex Context of the Syrian Conflict,” in de Goning, Cedric, Rui Saraiva, and Ako Muto eds., Resilience, Peacebuilding, and Preventing Violent Extremism: A Complex Systems Perspective on Sustaining Peace, 2025, Routledge, 『人道的対応とは何かーシリア紛争の教訓』(2026年、法律文化社)等。

小松太郎/こまつたろう 発表タイトル: 人道主義と長期化する危機ー緊急期の教育(EiE)対応

上智大学総合人間科学部教育学科 教授

ミネソタ大学大学院博士(教育政策・行政)。国際協力機構(JICA)パキスタン事務所、ユネスコ・パリ本部プログラム担当官、国連コソボ・ミッション教育行政官、ユネスコ・ボスニアヘルツェゴビナ事務所教育担当官、九州大学大学院准教授等を経て、現職。主な著書に、『ウクライナ危機から考える「戦争」と「教育」』(共著)(2022年、教育開発研究所)、『途上国世界の教育と開発ー公

『正な世界を求めて』(編著)(2016年、上智大学出版)、『教育で平和をつくる—国際教育協力のしごと』(単著)(2006年、岩波書店)等。

参考文献:

Komatsu, T., Ghalawinji-Yamamoto, K., Iwama, Y. and Hattori, S. (November 2023).

Remedial education program for Syrian refugees: ensuring their learning during a protracted crisis, *International Journal of Comparative Education and Development*, 26(1), 1–16.

<https://doi.org/10.1108/IJCED-02-2023-0008>

外村晃／ほかむらあきら 発表タイトル:人道主義とHDPネクサス—その繋がりと広がり

梅光学院大学国際学部国際教養専攻 専任講師

2016年より JICA 海外協力隊(ガーナ／感染症・エイズ対策)、在スリランカ日本大使館(政務班専門調査員)、JICA ナイジェリア事務所(企画調査員)を経て現職。スリランカでは内戦後の国民和解、ナイジェリアでは平和構築案件に携わった経験から、現在はポスト・コンフリクト社会における和解や、人道・開発・平和の連携(HDPネクサス)について研究。日本財団「Asian Peacebuilding Scholarship (APS)」12期生。

【ファシリテーター】

堀江正伸 / ほりえまさのぶ

青山学院大学地球社会共生学部 教授

大学卒業後、建設会社にて主に東南アジアにおける ODA 案件を担当。その後、国連世界食糧計画(WFP)に転じ、インドネシア・ティモール島、スーダン・ダルフル、フィリピン・ミンダナオ島、イエメン、アフガニスタンにて勤務。その間、紛争地や自然災害被災地にてプログラム担当官、資金調達官、広報官などとして人道支援に従事。WFP に在職中の 2016 年早稲田大学社会科学研究所より博士学位を取得し、2017 年に大学教員となる。2022 年 4 月より現職。

■ セッションの流れ(Plan of the Session)

セッション時間 16:30 – 18:00

16:30 – 16:35 セッションの趣旨説明

16:35 – 16:55 発表1: 武藤亜子 人道主義と人道的対応

16:55 – 17:15 発表2: 小松太郎 人道主義と長期化する危機—緊急期の教育(EiE)対応

17:15 – 17:35 発表3: 外村晃 人道主義とHDPネクサス—その繋がりと広がり

17:35 – 17:55 質疑応答、意見交換

17:55 – 18:00 まとめ